

前橋市のトランスフォーメーションのポイント

① 50,100年先において、どのような価値を提供し、そのためのビジネスモデルや資源はどのようなものであるかを明らかにしている

経営デザインシート① ～前橋ビジョン「めぶく。」～

自社の目的・特徴		経営方針	
水と緑と詩のまち		民と官の連携により新しい前橋の価値を創造する	
これまで (2013年頃) 資源 <ul style="list-style-type: none"> 東京駅から15時間 豊かな緑、自然 明治維新の基盤となった生糸産業 県庁所在地であること 充実した医療、教育 暮らしやすさ 	知財 <ul style="list-style-type: none"> アーツ前橋 前橋文学館 赤城山 製糸産業の遺産(レンガ建築の建物など) 	移行政略 移行のための課題 <ul style="list-style-type: none"> 観光に頼らないまちづくりが必要 みんなが共感するまちづくりのビジョンがない 首長が変わるたびにまちづくりの方針が変わる 	これから (50,100年後) 資源 <ul style="list-style-type: none"> 前橋ビジョン「めぶく」 前橋を変えたいと思う人々 前橋に新たに集まるナレッジワーカー、クリエイティブ人材 “刺激”と“Relax”が両立する環境 “多様性”“寛容性”
ビジネスモデル <ul style="list-style-type: none"> 観光収入 既存産業 地域内循環(地産地消) 	知財の果たしてきた役割 <ul style="list-style-type: none"> 集客(観光) 	必要資源 <ul style="list-style-type: none"> 街を変えたいと思う人々、熱い思いを持つ人々 サポーター、仲間(前橋商工会議所) 自治体(前橋市)、大学(共愛学園) 外部専門家(KMS TEAM)※コミュニケーションのデザイン会社 	ビジネスモデル <ul style="list-style-type: none"> ナレッジワーカーと地元産業とのコラボによってイノベーション、新デザイン、新ビジネスの創出を促し、地域経済を活性化させる。
価値 <ul style="list-style-type: none"> 遊休してきた遊休 (観光客へ)非日常体験、知的な好奇心を満たす。 (地元住民へ)各種公共サービスの提供 	観光先から得てきたもの <ul style="list-style-type: none"> 観光収入 税金 	解決策 (民と官両方を記載) 首長が変わっても方針が変わらないよう、外部専門家を起用し、50年後、100年後でも不変のビジョン(Where good things grow めぶく。) を、外部専門家とともに策定し、その下で民間主導のまちづくりを行う 民と官の真の連携(上下ではなく対等な連携) <ul style="list-style-type: none"> (一社)前橋まちなかエージェンシー(前橋ビジョン「めぶく。」の具現化を担い、前橋のまちづくり(貢献)の設置 太陽の会(市内に拠点を置く企業有志により結成。参画企業は毎年、まちづくりのために寄付金を拠出) 民間が主体となっさまざまなまちづくりを行う 多様性、寛容性、暮らしやすさをベースに街や人が幸せになるための新しい価値の創造(めぶく)でチャレンジするヒトやコトを支援する 都市魅力アップ共創推進事業(民間の突っ込んだ提案を最大限活かすために、競争入札に囚われない行政の仕組み)の活用 	価値 <ul style="list-style-type: none"> 提供する価値 <ul style="list-style-type: none"> (ナレッジワーカーへ)働きやすさ、やりがい、創造する喜び、リラックス (住民へ)充実した教育や医療、コロナ設備、人口増加、活気ある街の雰囲気 提供先から得るもの <ul style="list-style-type: none"> ナレッジワーカーと地元産業とのコラボによって生まれるイノベーション、新デザイン、新ビジネスから生まれる収入(税金)
これまでの外部環境 <ul style="list-style-type: none"> 大都市と比べてストレスの少ない環境 	弱み <ul style="list-style-type: none"> 有名観光スポットがない 行政主導まちづくりの限界 前橋市人口減少 厳しい地方財政 公共交通が不便 街中の魅力不足 一貫した強いコミュニケーションの欠如 地元の人たちは諦めている 		

※経営デザインシート全体は別紙にて

② ①を実現するための解決策として、

・「首長が変わっても方針が変わらないよう、また、外部視点を取り入れるよう、50年後、100年後でも不変のビジョン(Where good things grow めぶく。)を、外部専門家とともに策定」すること

・「民と官の真の連携(上下ではなく対等な連携)」が重要であることが示されている

前橋市のトランスフォーメーションのポイント

① 「めぶく。」がさらに詳細かつ具体的に、これからの提供価値を、「デザイン都市」、「Green & Relax」、「IT（イト）の町」、「人が育つ街」の4つのキーワードで表している

② 将来像を実現するため、
 ・『前橋ビジョン「Where good things grow」「めぶく」が、市民や民間に浸透するための解釈やイメージ』
 ・「産学民官の真の連携」
 が重要であることが示されている

経営デザインシート② ～前橋ビジョン「めぶく 2.0」～

自社の目的・特徴		経営方針	
・水と緑と詩のまち ・世界一美しい水と緑につつまれたデザイン都市まえばし ・個人が主役の豊かで持続可能なスーパーシティ		・前橋ビジョン「めぶく。」、Where good things grow. ・Green & Relax 構想、前橋市アーバンデザイン ・まちづくりのビジネス化	
これまで（2019年頃）	移行戦略	これからの外部環境	これから（50,100年後）
資源 ・前橋を愛したいと思う人々 ・太陽の恵み ・全国初の自動運転バス有料営業、ワンマイルタクシー（実証実験中） ・ICTしるくプロジェクト ・EBPMの推進（超スマート自治体研究協議会） ビジネスモデル ・既存産業、観光収入 ・新規産業（新規オプション店舗、自動運転バス等） ・GIA（群馬イノベーションアワード）、GIS（群馬イノベーションスクール）等のクリエイティブ人材の集積により起業家、新規産業を増やす。 価値 ・（観光客へ）非日常体験、知的好奇心を満たす。 ・（地元住民へ）各種公共サービスの提供、新しい交通手段、将来へのワクワク感	移行のための課題 ・IT企業等のナレッジワーカーを呼び込むための準備 ・地方創生の真の先進モデルとなるための規制緩和や補助金等の国の支援が必要 ・まちづくりのビジネス化に伴う、銀行、企業の協力・支援 ・市民、議会等の理解・協力が必須 必要な資源 ・IT企業等のナレッジワーカー（クリエイター）、行政、企業等によるまちづくりのビジネス化の仕組み、制度、協力、支援 ・前橋ビジョン「Where good things grow」「めぶく」が市民や民間に浸透するための解釈やイメージの次のステージ構築とキーコンテンツ等（前橋ビジョン「めぶく 2.0」）	・知識産業オフィス機能が郊外へ移り始めている ・多拠点居住 ・東京一極集中（若者、産業）	資源 ・デザイン都市：Qの広場、白井屋、世界的シェフ、シェフレジデンス ・Green & Relax：Qの広場、緑化された小道、赤城山、広瀬川 ・IT（イト）の町：Data Center、MasS、UWB、顔認証、ed-tech、Medical ・人が育つ街：GIA/GIS、ed-tech、大学教育支援、リカレント ビジネスモデル ・デザイン都市：世界的建築家の活用、食のデザイン ・Green & Relax：マチナカの森化、自然の資産の活用 ・IT（イト）の町：最新技術の実証実験特区、住民ファーストなテクノロジーの活用 ・人が育つ街：起業家の支援、最先端の教育 価値 ・提供先から得るもの ・Well-being/Well-design ・「デザイン都市」 ・「Green & Relax」 ・「IT（イト）の町」 ・「人が育つ街」
これからの外部環境 ・5G ・スマートシティモデル事業（国土交通省）に採択された ・東京一極集中（若者、産業）	弱み ・前橋ビジョン「めぶく。」が行政全体、市民全体へまだ浸透していない。 ・ビジョンを実現する人手が足りない	解決策 （民と官両方を記載） ・前橋ビジョン「Where good things grow」「めぶく」が市民や民間に浸透するための解釈やイメージの次のステージ構築とキーコンテンツ等による本当の浸透を図る（前橋ビジョン「めぶく 2.0」） ・産学民官の真の連携により、UDXの最新技術、グランドデザイン、新しいファイナンス等によるまちづくりのビジネス化により毎日それぞれの人の暮らしを豊かな生活に変える、人間本位の都市を再構築するスマートシティ（スーパーシティ）による地方創生の先進モデルの実装 ・前橋市をIT技術の実証実験都市にする。 ・民間によるスーパーシティ推進協議会、実行計画の構築 ・成果に連動した民間委託報酬導入、複数年度会計等の規制緩和、新しいファイナンススキーム、10年のグランドデザイン（まちづくりのビジネス化） ・前橋出身の起業家と、個人的な繋がりの一流メンバーがリードし、スタートアップのように育つまちづくり	知財 ・都市が提供する刺激・自然が提供するPlay ・データ活用等（テクノロジー） ・新しい価値・創造への新たな課題に対する既存の支援に匹敵しない支援 ・新たな課題 ・ナレッジワーカーによるイノベーション、新デザイン、新ビジネスの創出の促進 ・スーパーシティのインフラ構築 ・100年時代、人の可能性がめぶき、拓きつづけること（スーパーシティの本質） ・イノベーションや新デザイン、新ビジネスから生まれる収入（税金） デザイン価値 ・感度の高い人が住みかくなる／住んでいる人や子供のデザインアートに対する感性が育つ／地元食の味の可能性が拡張する ・Green & Relax：都市で最先端の仕事しながら、自然に囲まれる人間らしい生活／たのびを歩む子どもでも心地よさを感じられる街 ・IT（イト）の町：高齢者も子供も、圧倒的に便利でくらしやすい生活／日本のデジタル産業の可能性を試せば、拡張できる街／デジタルの才能が集い、出会う街 ・人が育つ街：いつになっても、学びなおし、起業にチャレンジできる街／最先端のデジタル教育を子供も女性も高齢者も受けられる／「本当にいいもの」が一流の人と一緒に感性が育つ街

※経営デザインシート全体は別紙にて